

せきせいしょうこ  
石西礁湖自然再生協議会について

石西礁湖は、石垣島と西表島の上に位置し、東西に約20km、南北に約15kmの広さを持つ日本最大規模のサンゴ礁海域。400種を超える造礁サンゴが分布する種の多様性の高い海域であり、沖縄本島等、高緯度域へのサンゴ幼生の供給源として、我が国のサンゴ群集を支える重要な役割を果たしていると考えられている。

しかし、1998年以降サンゴ群集の大量死の原因となる広域的な白化現象が頻繁に見られるようになったことに加え、2000年以降オニヒトデの大発生による食害が広範囲で見られるなど、サンゴ礁生態系の衰退が確認されている。環境省は平成 14 年度から、石西礁湖及びその周辺海域において生態系の観点から詳細な調査を実施。専門家等の知見を踏まえ、平成 17 年 3 月には「石西礁湖自然再生マスタープラン」を作成した。

平成18年2月に自然再生推進法に基づく「石西礁湖自然再生協議会」を設立。  
(優れたサンゴ礁を保全することに加え、赤土流出への取り組みを進めるなど陸域からの環境負荷を少なくするとともに、サンゴ群集の修復などを通じたサンゴ礁生態系の再生を検討。)

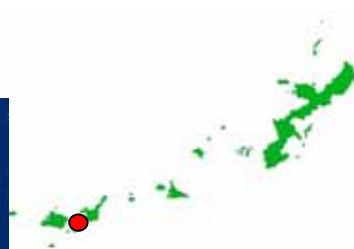
第 1 回自然再生協議会（平成 17 年 12 月 2 日）

- ・ 協議会を設立
- ・ 全体構想の作成方法について協議

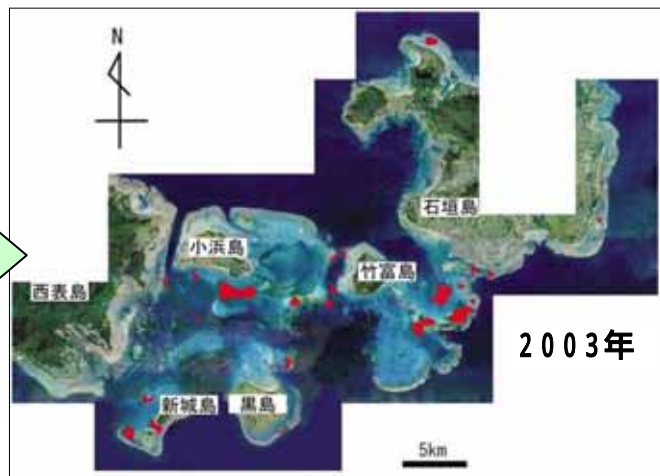
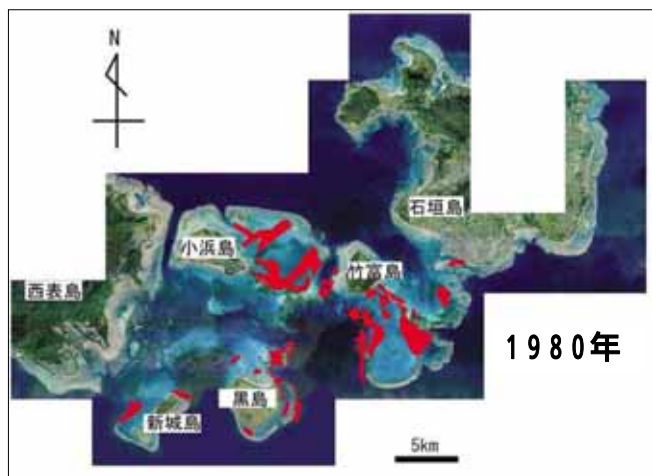
第 2 回自然再生協議会（平成 18 年 8 月 4 日）

- ・ 全体構想（案）の協議

せきせいしょうこ  
石西礁湖自然再生協議会



自然再生の対象となる区域(協議会規約より)



石西礁湖のサンゴの衰退

図中の赤地域: 枝状ミドリイシ高被度地域



オニヒトデの大量発生



海水温の上昇に起因する白化現象



赤土流出等、陸域からの環境負荷